



Bank of Japan Nagasaki Branch

長崎県の金融経済概況

(2016年11月)

【概況】

長崎県の景気は、全体として緩やかな回復基調を続けている。

最終需要面をみると、公共投資は、大型案件を中心に増加している。設備投資は、増加の動きが一服している。個人消費は、全体として底堅く推移している。観光関連は、持ち直している。住宅投資は、持ち直している。

生産は、横ばい圏内の動きとなっている。また、雇用・所得環境をみると、労働需給は緩やかな改善が続いており、人手不足感が強まっている。雇用者所得は持ち直しの動きが一服している。消費者物価は、前年を若干下回って推移している。

12月短観における業況判断 D.I. (全産業) は、前回調査に比べて「良い超」幅が拡大した(9月短観: 8 → 12月短観: 12)。

この間、中小企業の景況感は、弱い動きとなっている。

【本件に関する問い合わせ先】

日本銀行長崎支店総務課

850-8645 長崎市炉粕町32番地

TEL: 095-820-6110 FAX: 095-820-0299

本資料は当店ホームページ (<http://www3.boj.or.jp/nagasaki/>) にも掲載しています。

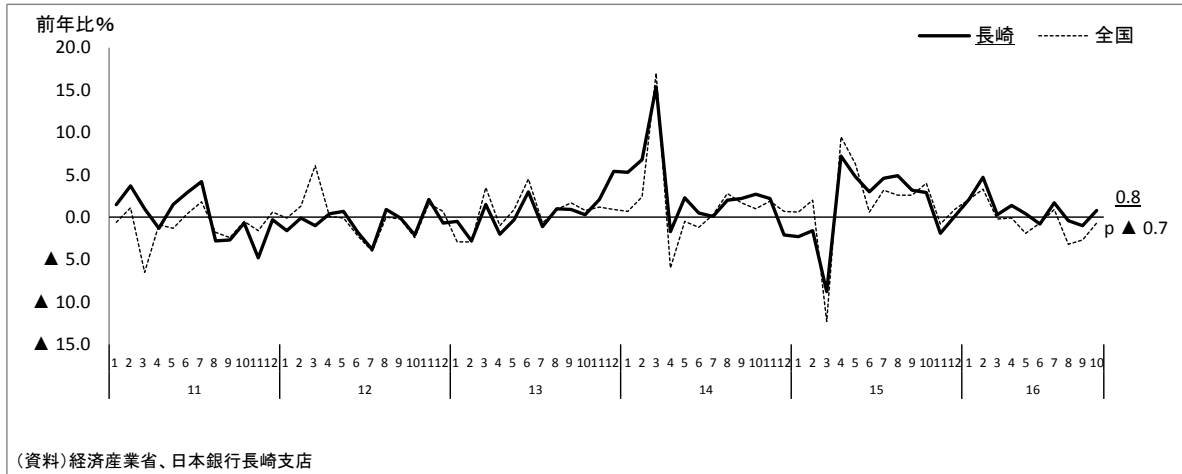
1. 経済動向

(1) 個人消費

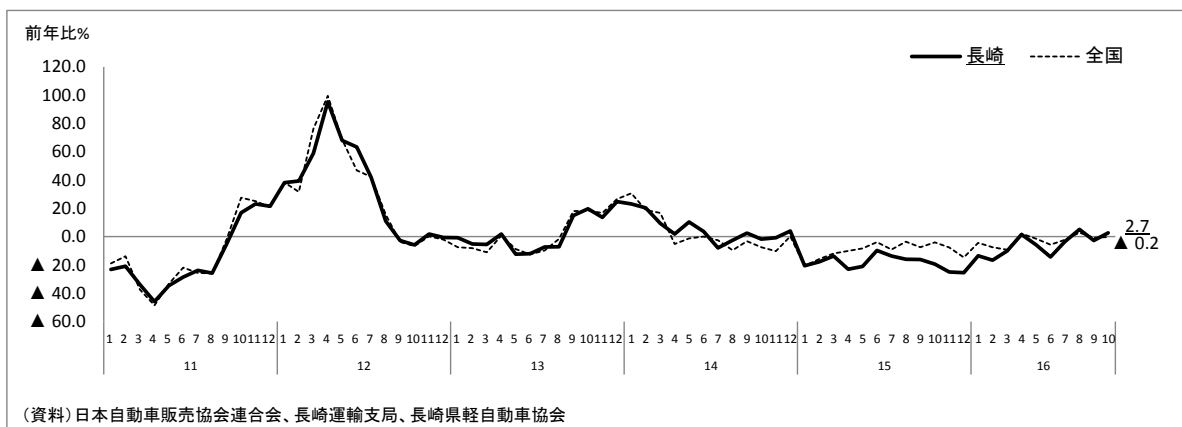
個人消費は、全体として底堅く推移している。

主要小売店売上高(10月)は、スーパー・ショッピングセンター、家電販売で前年を上回り、全体でも増加した。乗用車の新車登録台数(同)は、普通車を中心に増加した。旅行取扱高(同)は、国内旅行、海外旅行ともに弱めの動きとなっている。

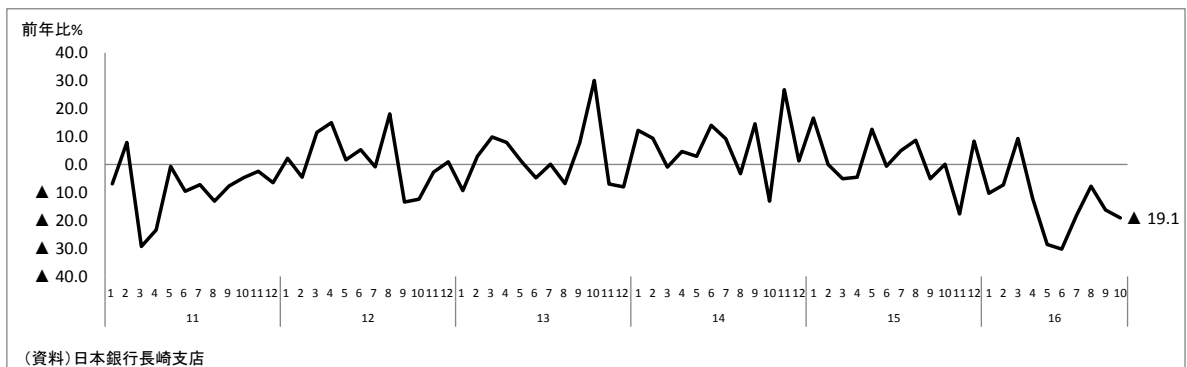
【主要小売店売上高】



【乗用車新車登録台数<含む軽乗用車>】



【旅行取扱高】



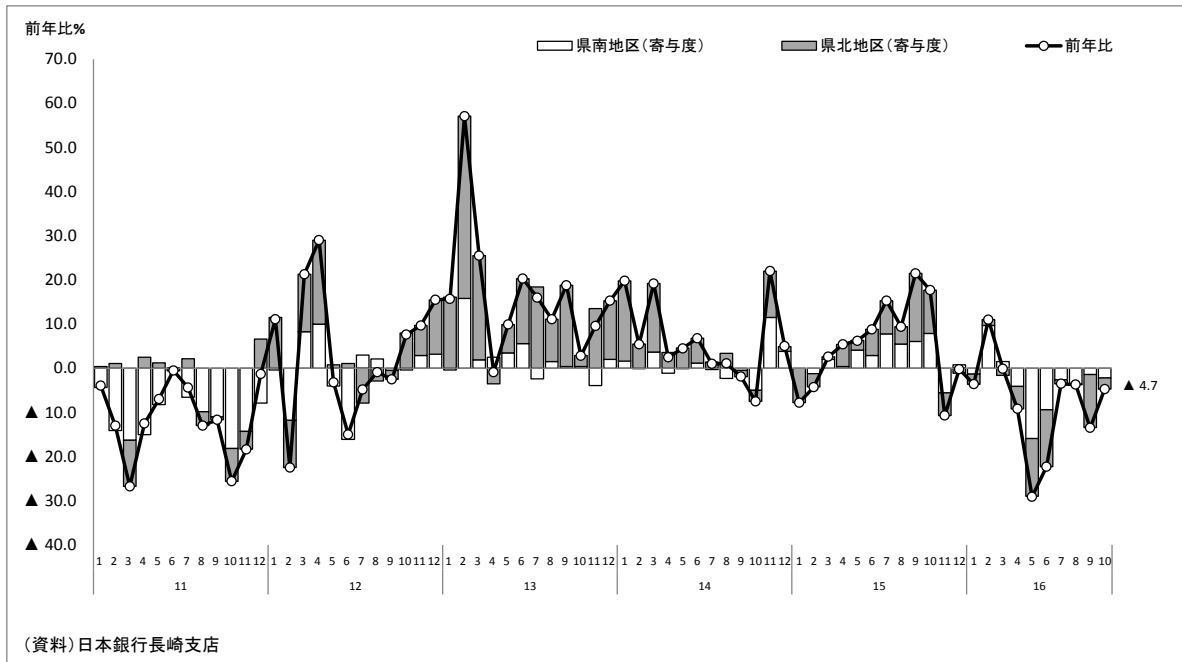
(注) 集計対象先の変更により、16/2月以前と同3月の計数は不連続。同様に、同3月と同4月以降の計数も不連続。

(2) 観光

観光関連は、持ち直している。

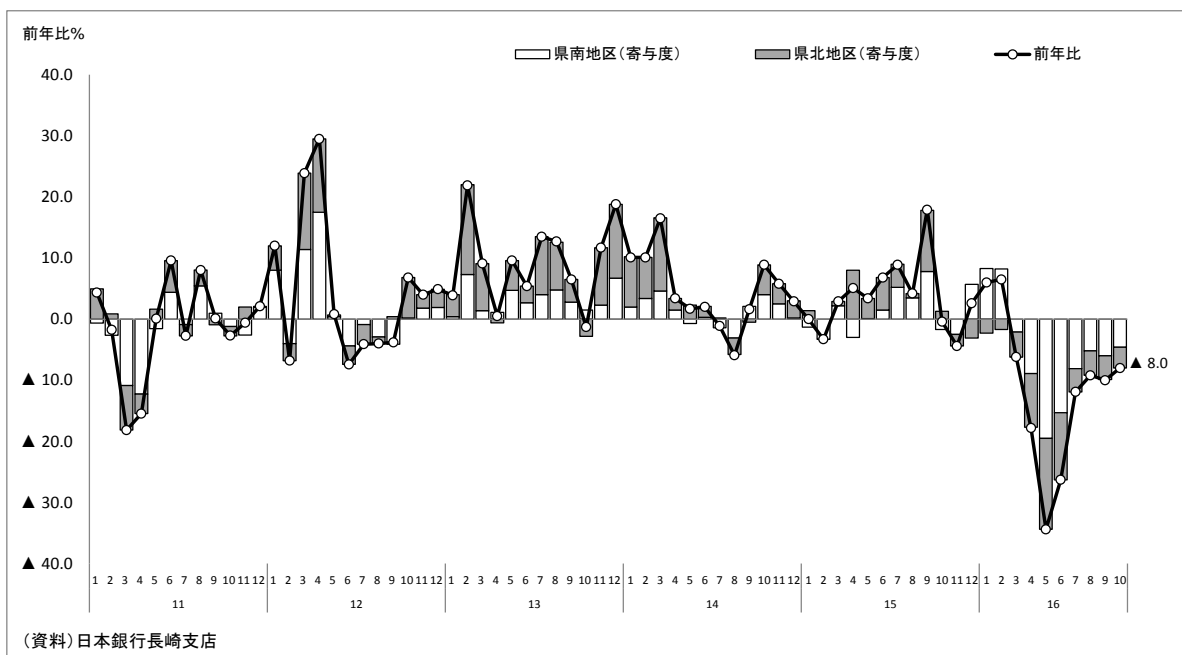
主要観光施設入場者数(10月)および主要ホテル・旅館宿泊者数(同)は、世界遺産登録効果の一巡等から前年を下回っているものの、地震の影響からの持ち直しの動きが続いている。

【県内主要観光施設入場者数】



(注) 集計対象先の見直しにより、14/4月以降の計数は14/3月以前とは不連続。

【県内主要ホテル・旅館宿泊者数】

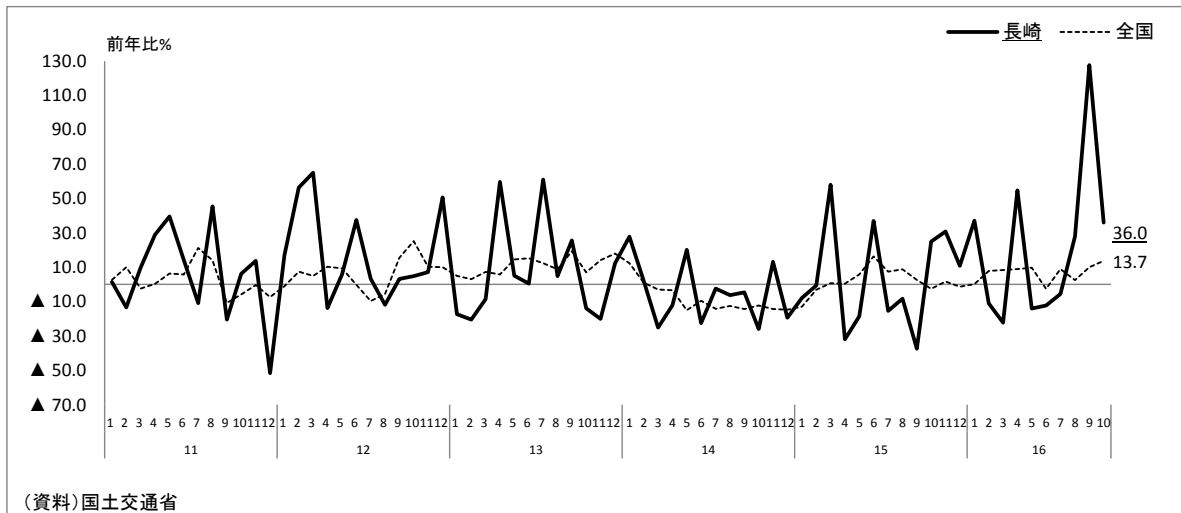


(3) 住宅投資

住宅投資は、持ち直している。

新設住宅着工戸数(10月)は、貸家を中心に増加した。

【新設住宅着工戸数】

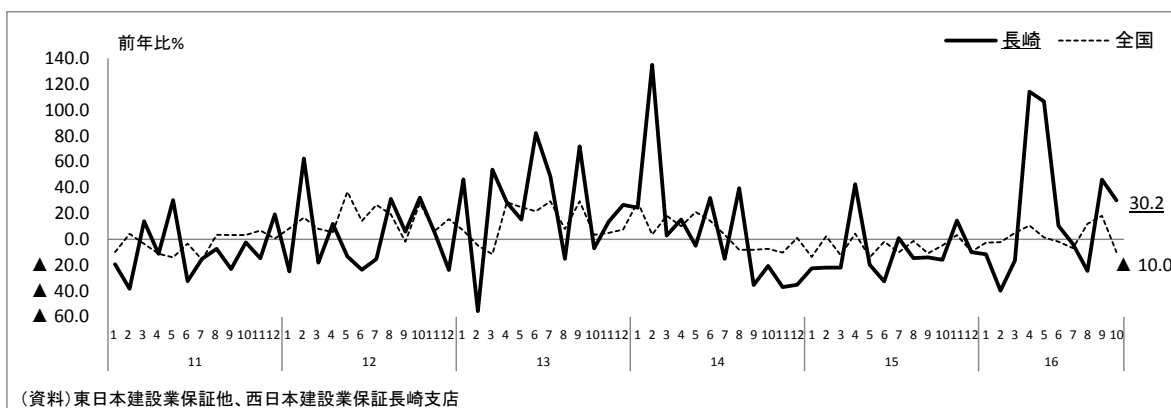


(4) 公共投資

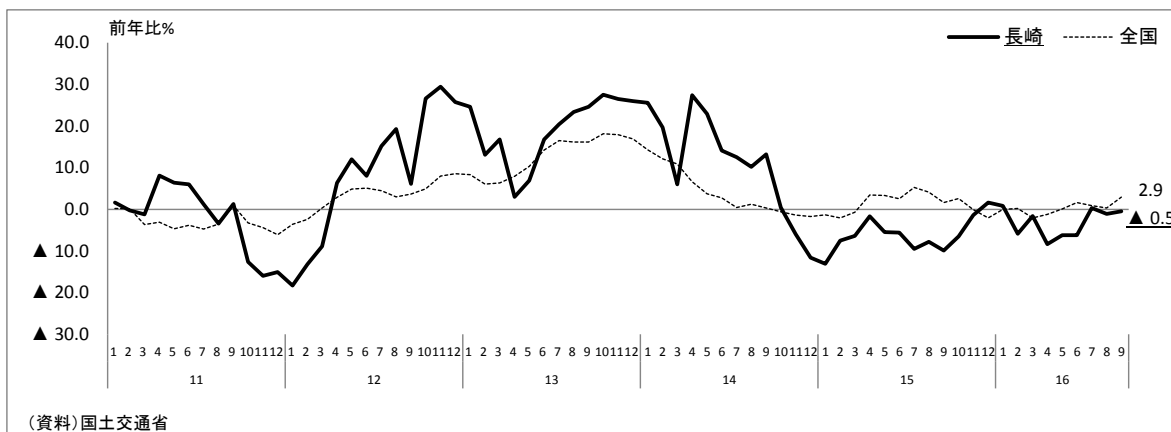
公共投資は、大型案件を中心に増加している。

公共工事請負金額(10月)は増加したものの、建設工事出来高(9月)は減少した。
生コン出荷量は、県央地区を中心に底堅く推移している。

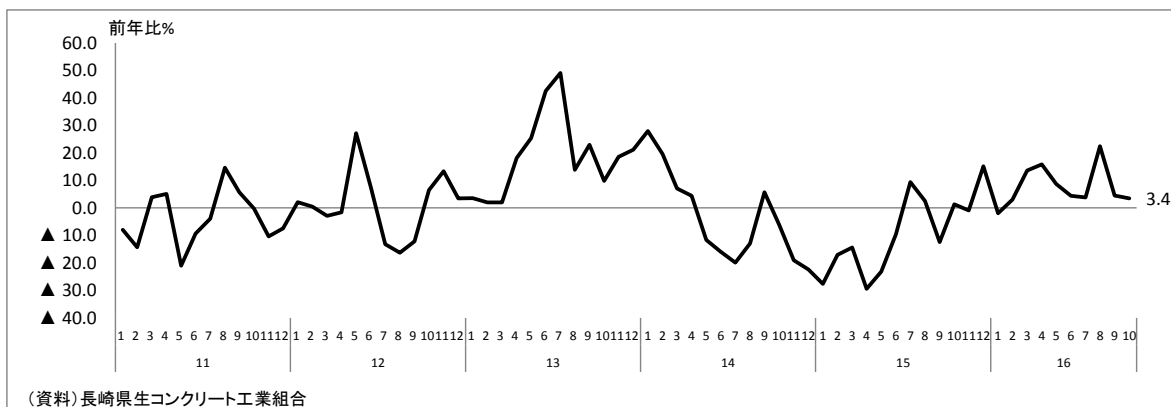
【公共工事請負金額】



【建設工事出来高】



【生コンクリート出荷量】



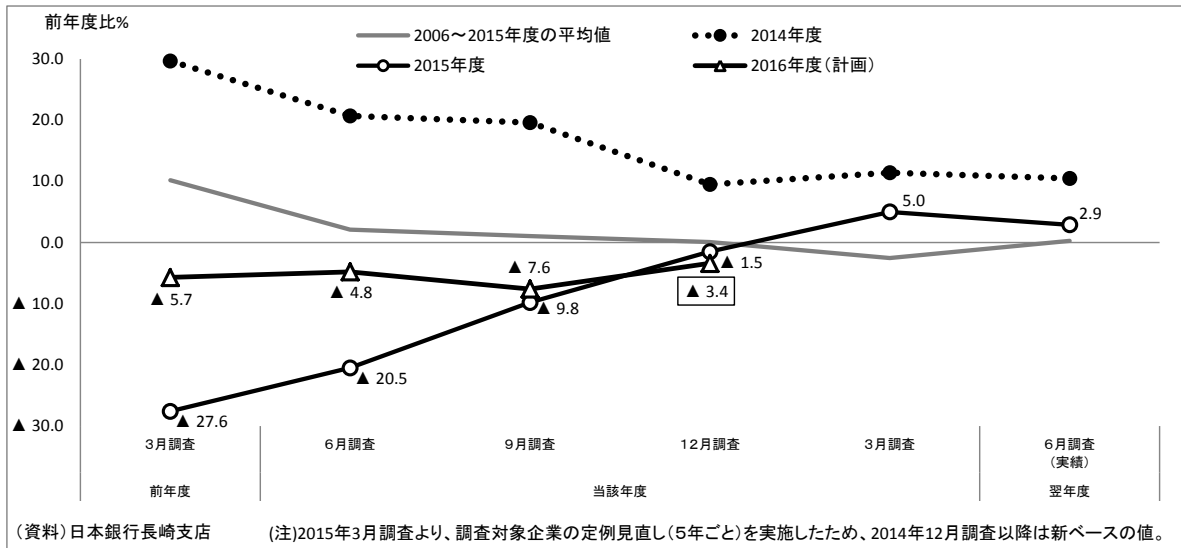
(5) 設備投資

増加の動きが一服している。

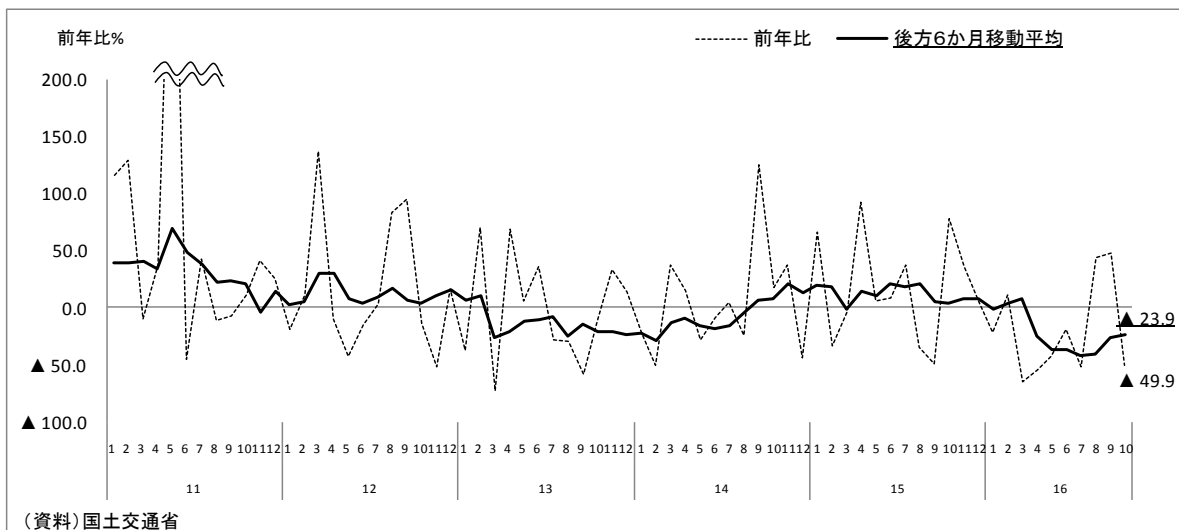
建築物着工床面積（10月、民間非居住用）は前年を下回った。

2016年12月短観における2016年度設備投資計画をみると、製造業は老朽化設備の更新や能増投資、省力化投資の実施から増加するものの、非製造業において新規出店や店舗改装の動きが一巡しており、全体として前年を下回る見通しにある。

【短観（長崎県分）・設備投資額】



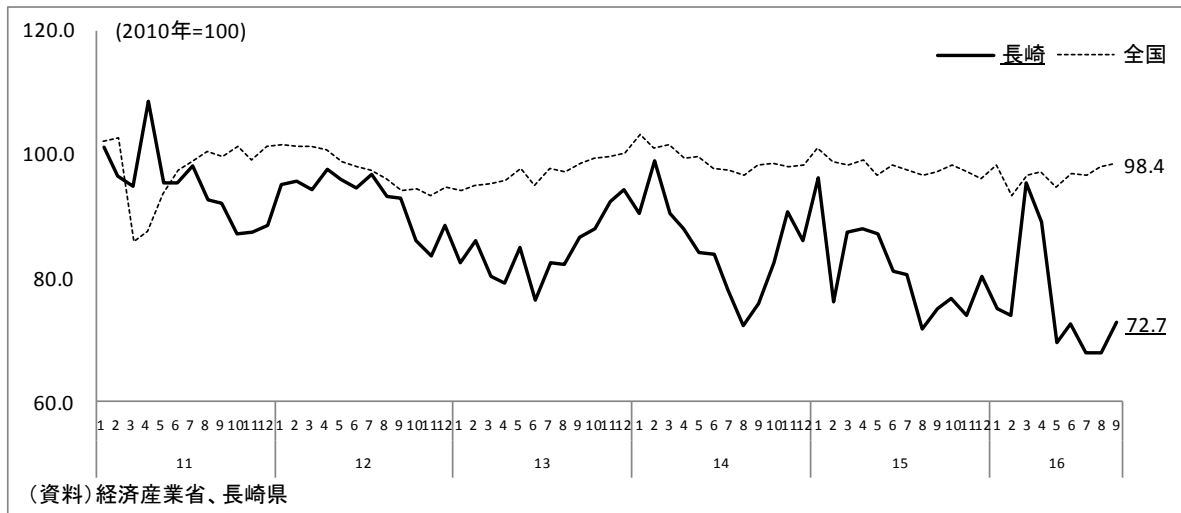
【建築物着工床面積（民間非居住用）】



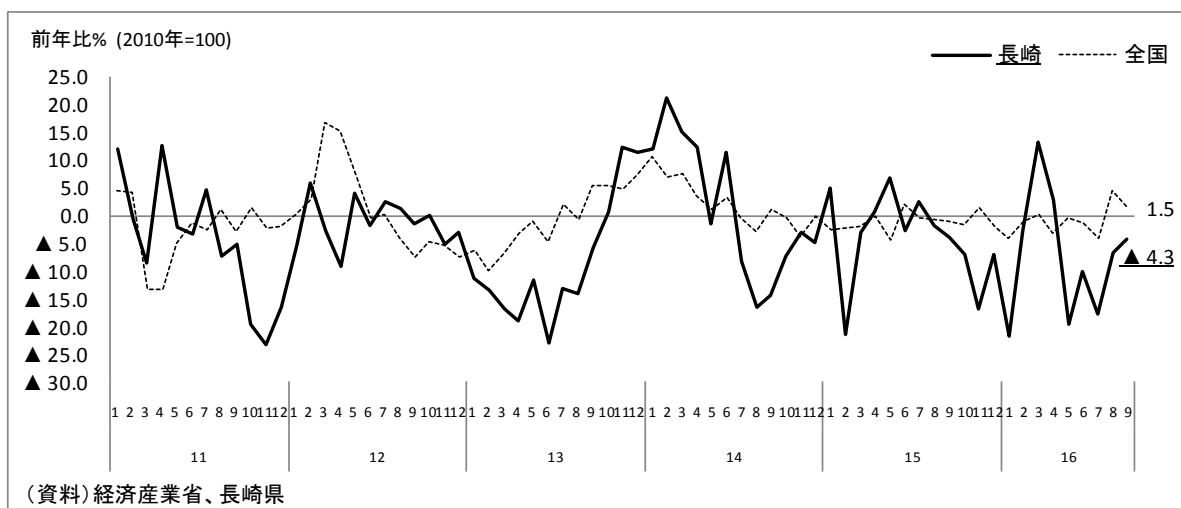
(6) 生産

横ばい圏内の動きとなっている。

【鉱工業生産指数・季調済】



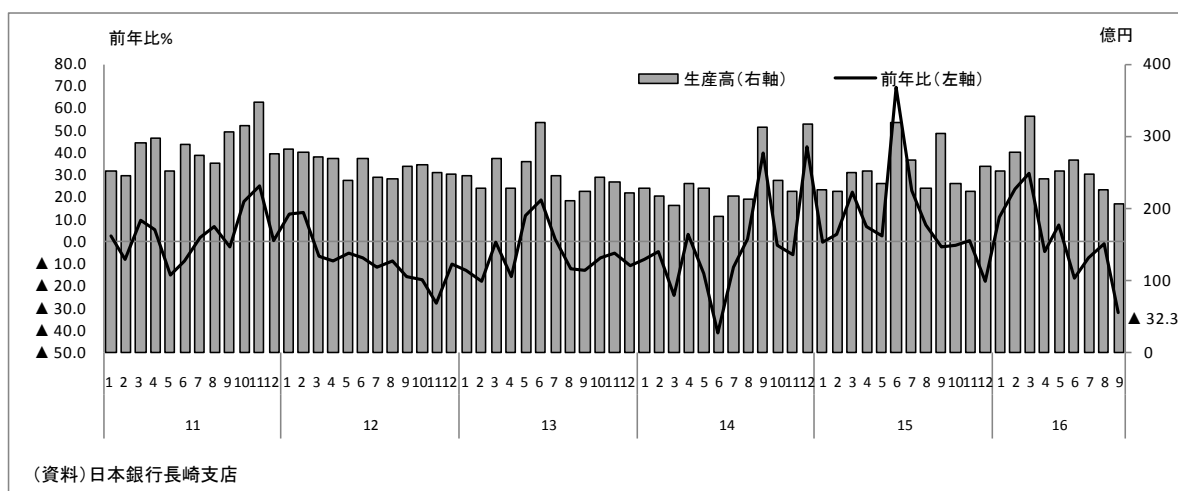
【鉱工業生産指数・原指数】



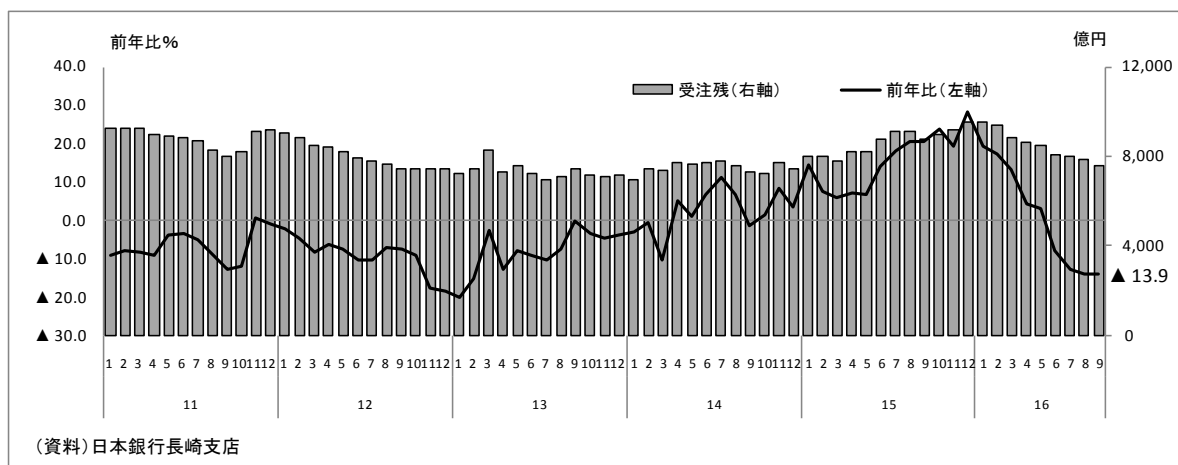
(業種別生産動向)

業種		生産動向
造船	大手・中堅造船	高水準横ばい圏内の動きとなっている。
	中小造船	更新需要等を背景に高水準の受注残となっており、高操業が続いている。
機械・重電	原動機	高水準横ばい圏内で推移している。
	大・中型モーター	持ち直しの動きが一服している。
	冷熱機器	弱含みで推移している。
電子部品等		持ち直している。
陶磁器		持ち直している。

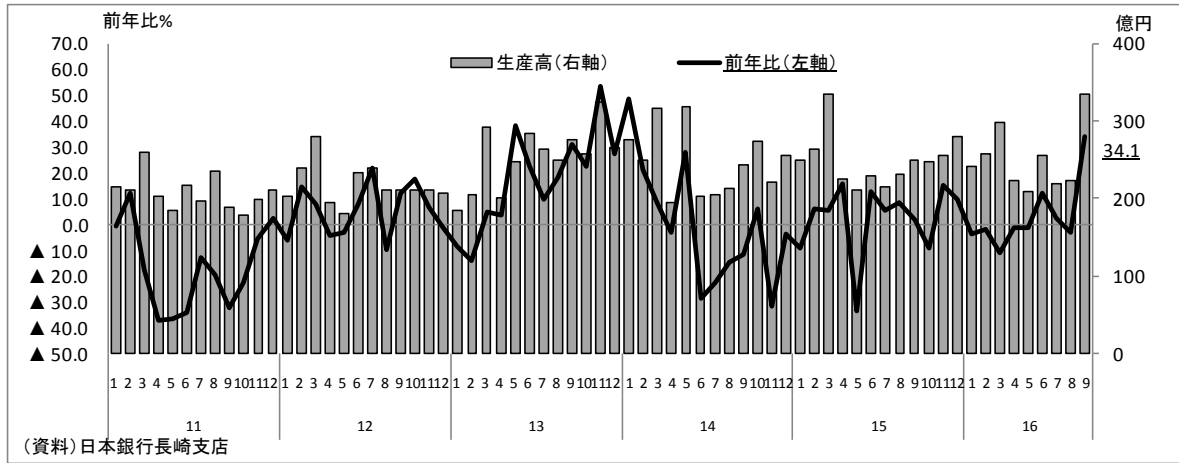
【造船生産高】



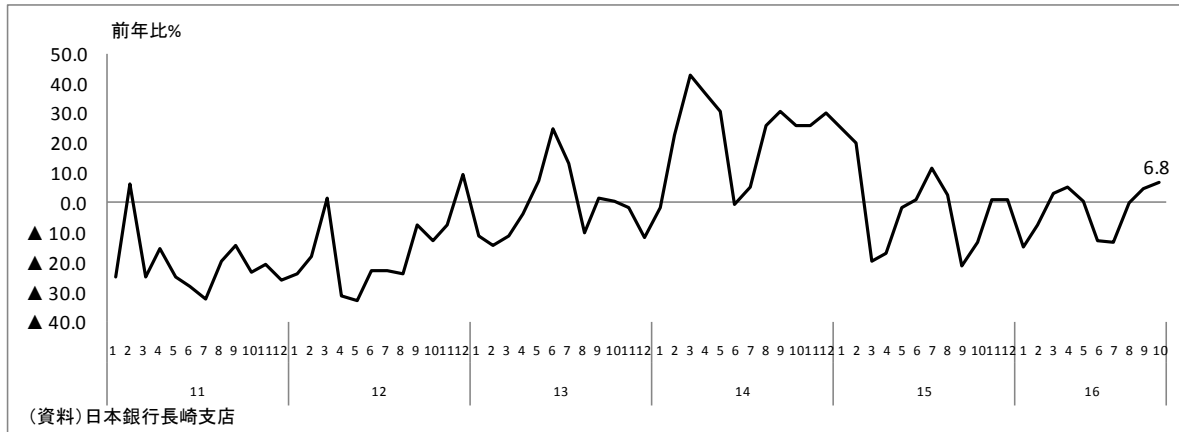
【造船月末受注残】



【機械・重電生産高】



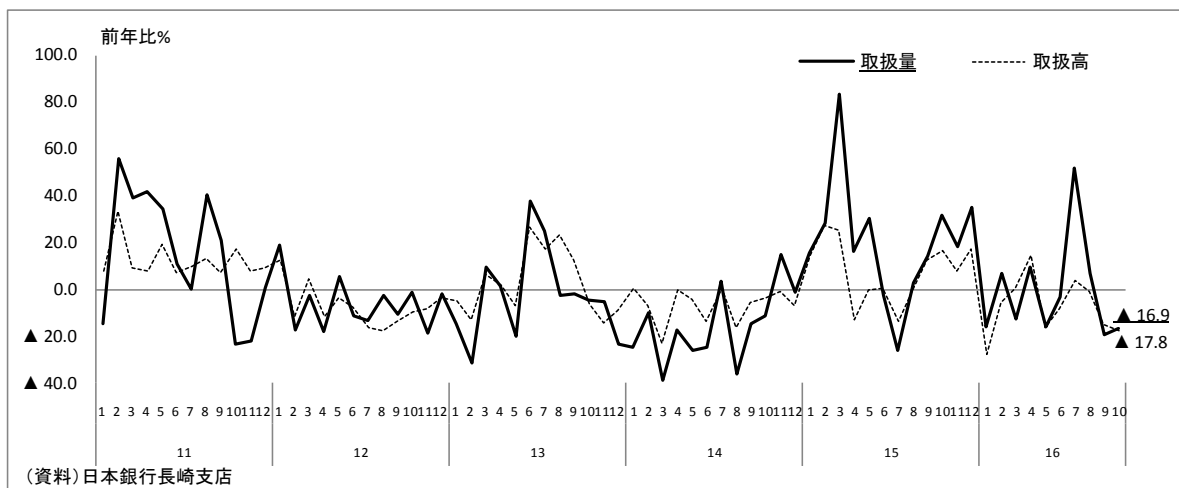
【電子部品等生産高】



(水産業)

県内主要魚市場の取扱いをみると、取扱量は趨勢的に減少傾向にあり、このところ弱めの動きとなっている。

【県内主要魚市場取扱量・取扱高】

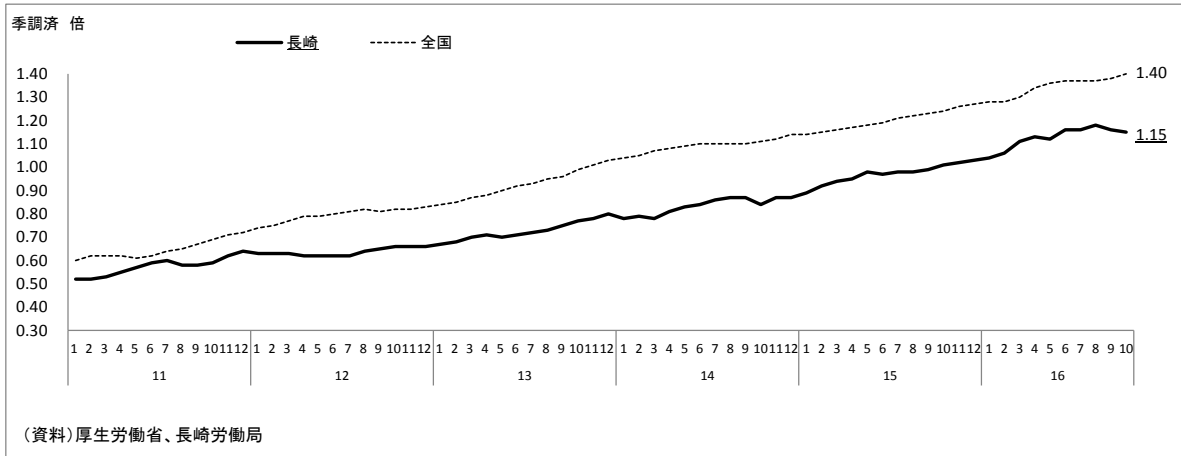


(7) 雇用・所得

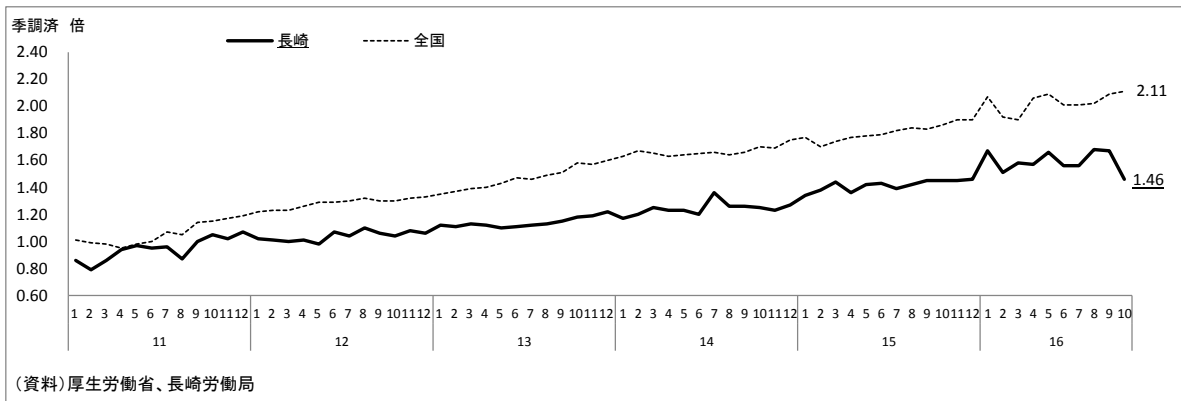
雇用・所得環境をみると、労働需給は緩やかな改善が続いており、人手不足感が強まっている。一方、雇用者所得は持ち直しの動きが一服している。

有効求人倍率（10月）は、1.1倍台で推移している。新規求人倍率（同）は、1.4倍台で推移している。雇用者所得（9月）は前年比減少した。

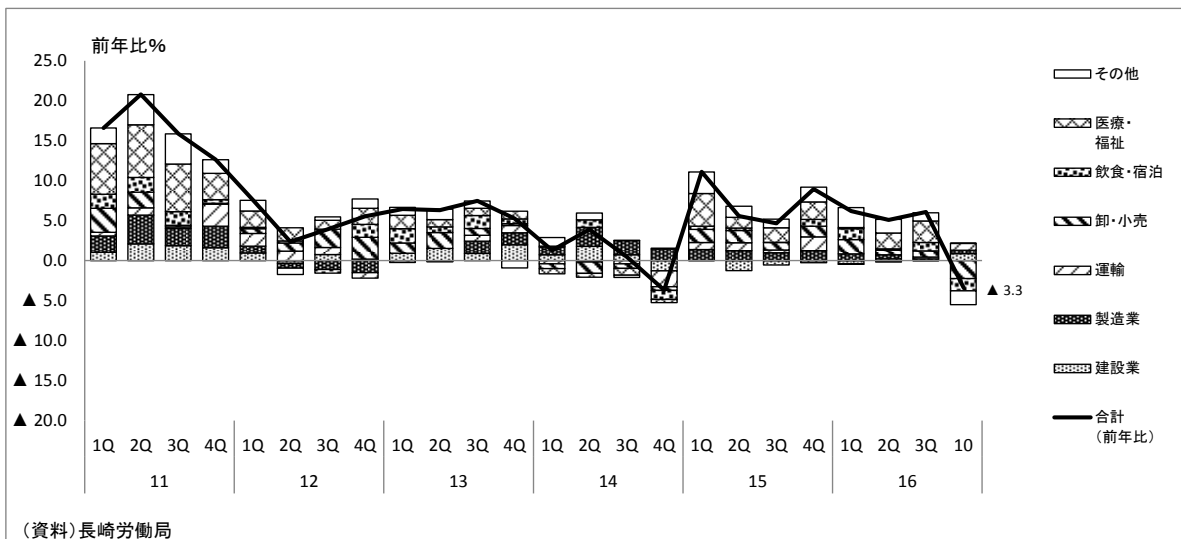
【有効求人倍率・季調済】



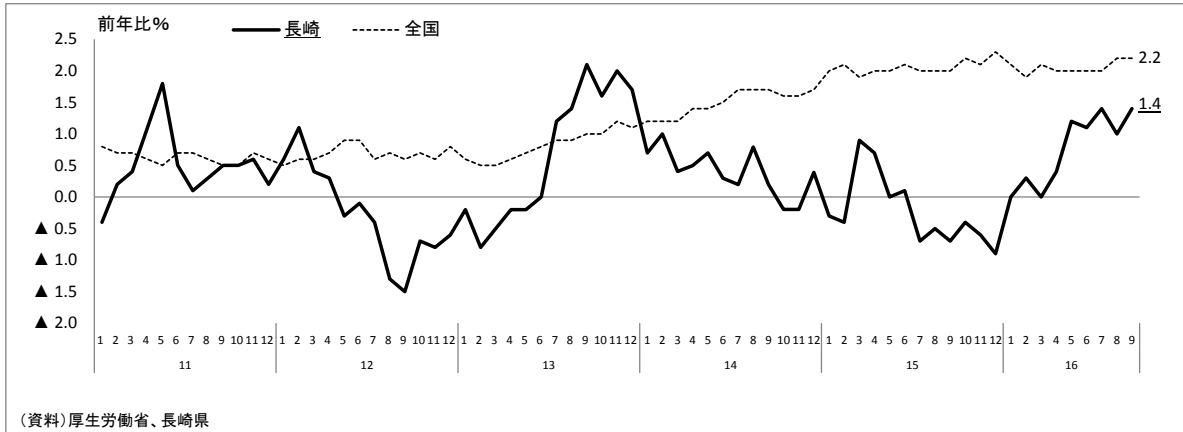
【新規求人倍率・季調済】



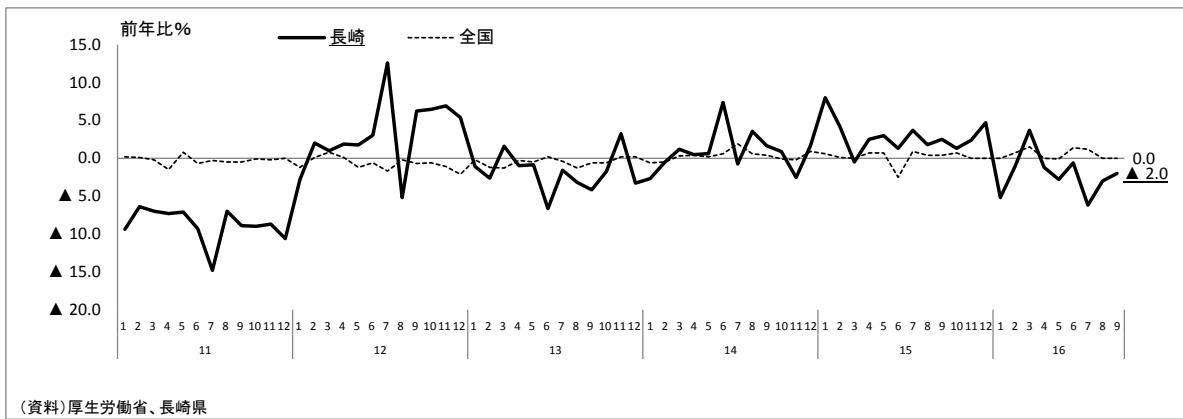
【新規求人（パート含む）の業種別寄与度】



【常用雇用指数】

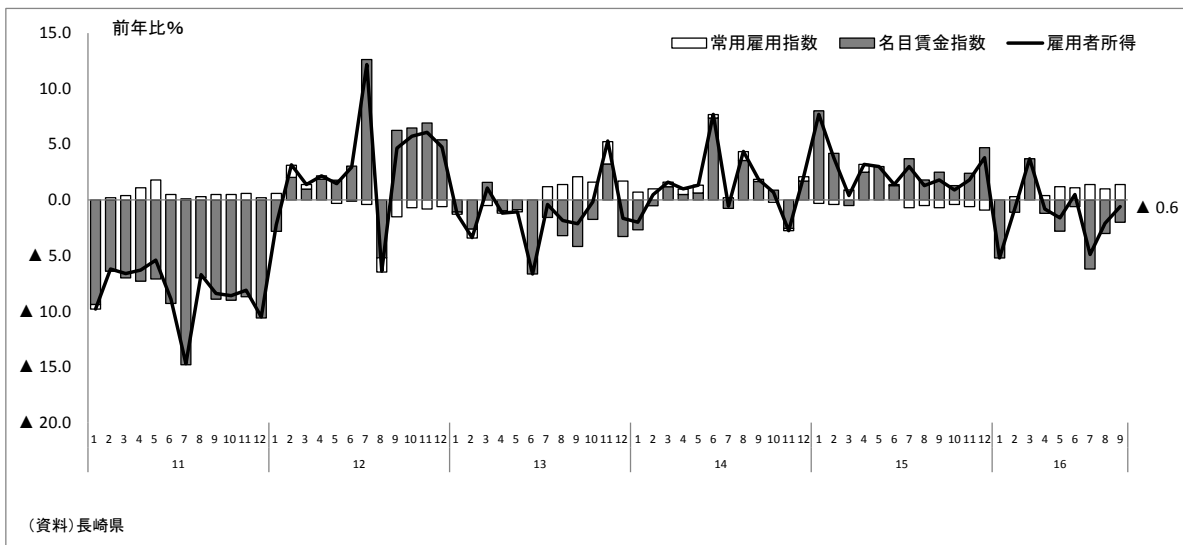


【一人当たり名目賃金】



(注) 一人当たり名目賃金は、毎月勤労統計調査の「名目賃金指数」。

【雇用者所得（常用雇用指数×名目賃金指数）】

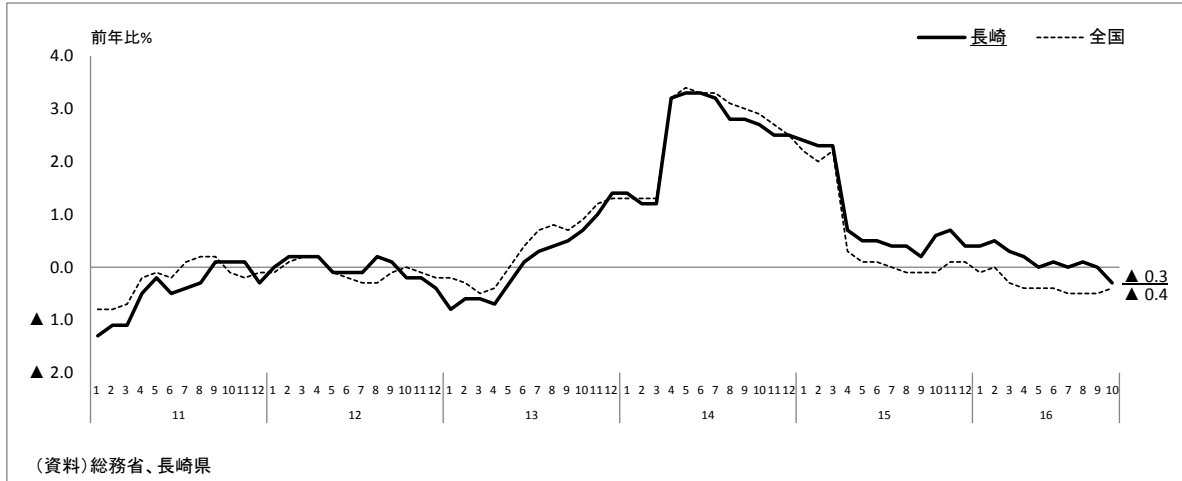


(注) 雇用者所得は、事業所規模5人以上の事業所における名目賃金指数と常用雇用指数を乗じて算出。

(8) 物価

消費者物価指数（10月、生鮮食品を除く総合、長崎市）は、前年を若干下回って推移している。

【消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）】

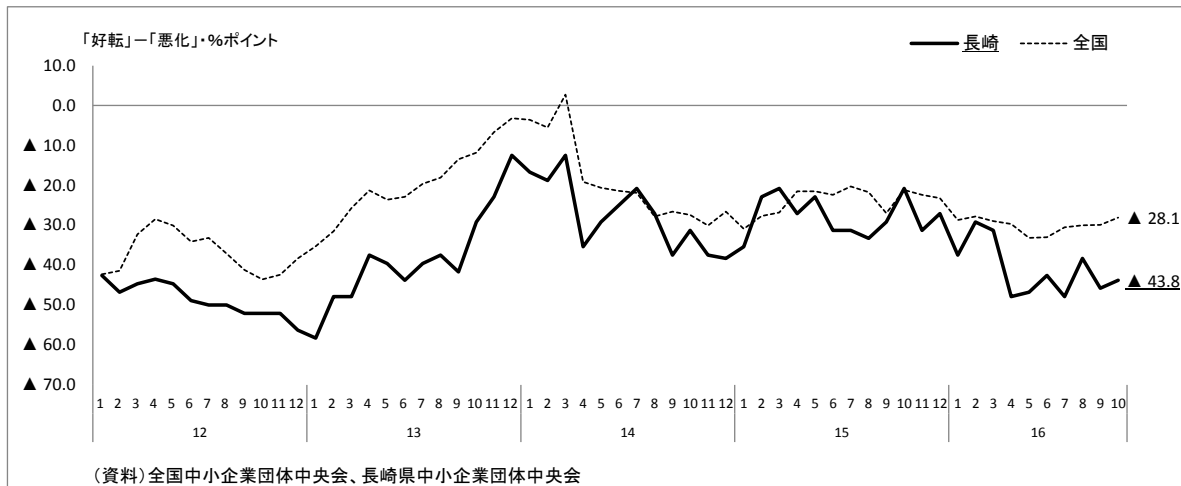


(注) 15/12月以前は2010年基準、16/1月以降は2015年基準。

(9) 中小企業の動向

中小企業の景況感は、弱い動きとなっている。

(参考)【中小企業の景況指数】



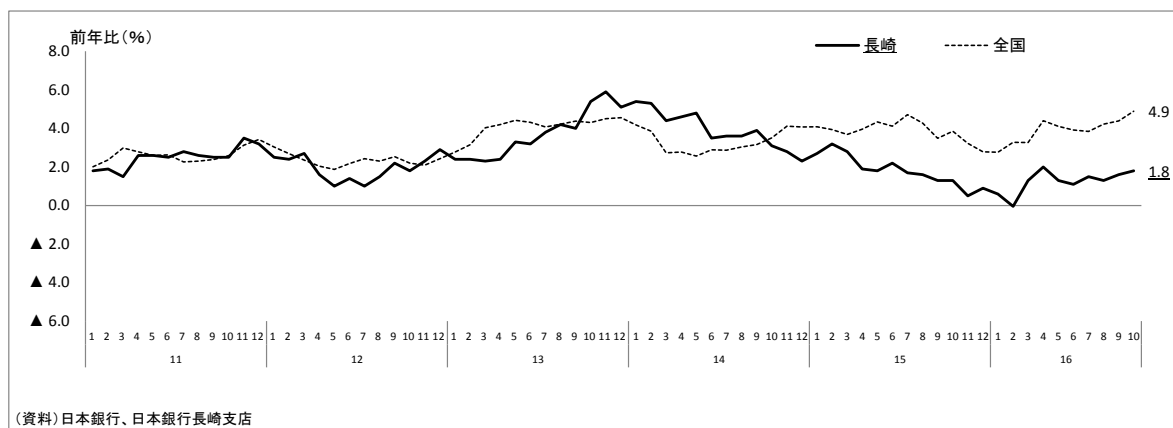
2. 金融事情

(1) 預貸金動向

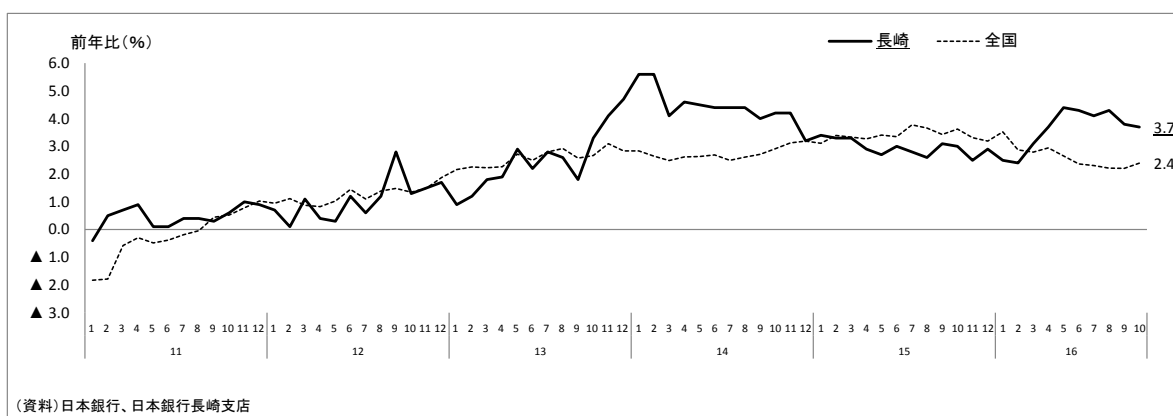
県内主要金融機関（県内所在店舗）の実質預金（10月、含む譲渡性預金）は、法人・個人預金を中心に、前年比+1%台で推移している。

県内主要金融機関（同）の貸出金（同）は、法人向けや個人ローンを中心に、前年比+3%台で推移している。

【実質預金＋譲渡性預金（末残）】



【貸出金（末残）】

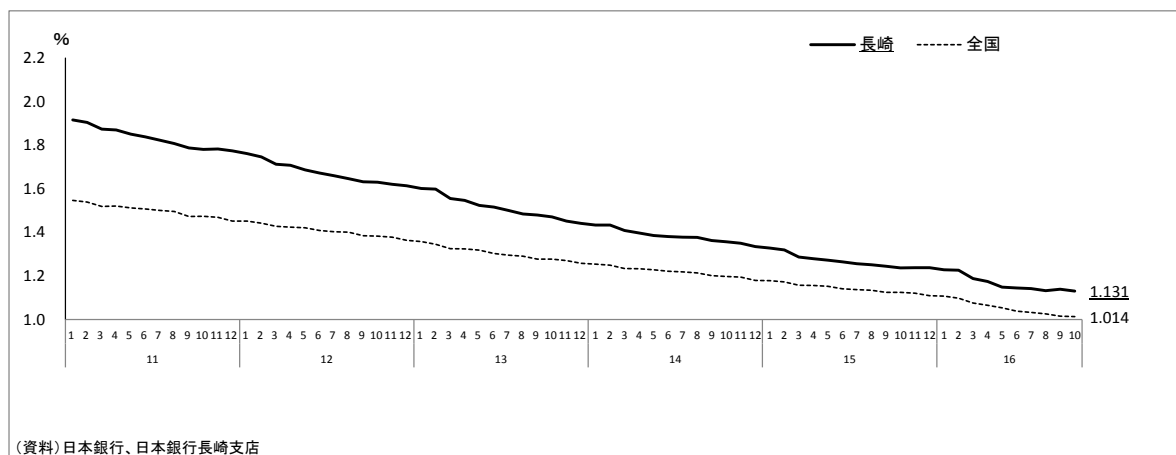


- (注)
- ・国内銀行（ゆうちょ銀行等を除く<以下同じ>）および信用金庫の県内店舗（全国は、国内銀行のみ）。
 - ・銀行勘定を集計。ただし、国内銀行については、オフショア勘定を除く。
 - ・実質預金は、預金から切手手形を控除したもの。
 - ・貸出金については、中央政府向け貸出を除く。

(2) 金利動向

貸出約定平均金利（10月、ストック・総合、地元行ベース）は、緩やかな低下傾向にある。

【貸出約定平均金利（ストック・総合）】

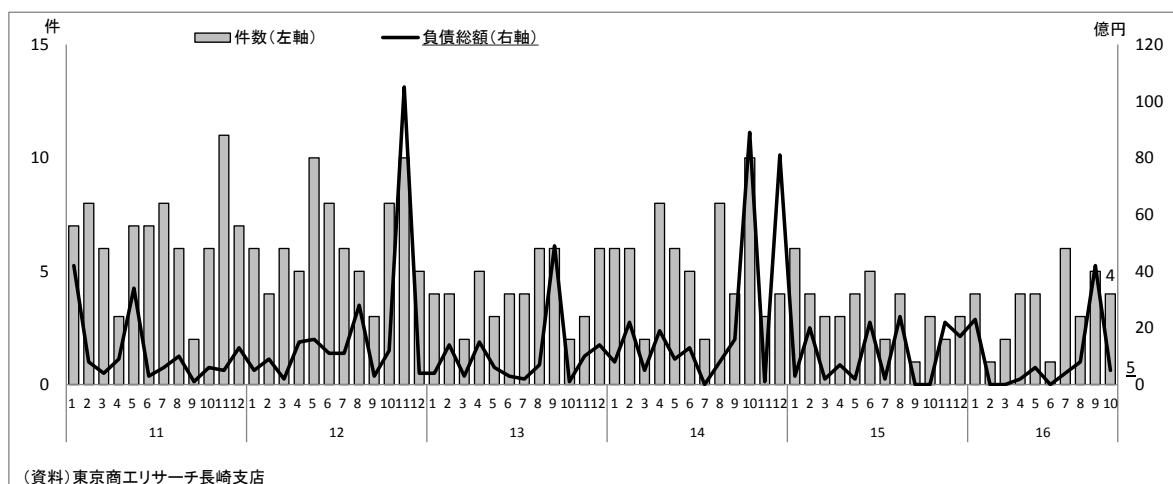


(注) ・国内銀行（ゆうちょ銀行等を除く。長崎は、県内に本店を置く国内銀行。）の貸出金利を貸出金残高で加重平均したもの。

(3) 倒産

県内企業倒産（10月、負債総額10百万円以上）は、落ち着いた動きが続いている。

【企業倒産（件数、負債総額）】



(注) ・負債総額は億円未満切り捨て。